

若者も楽しめる野外ライブで市内の資金循環は可能か

1208A班

I 序論

現状理解

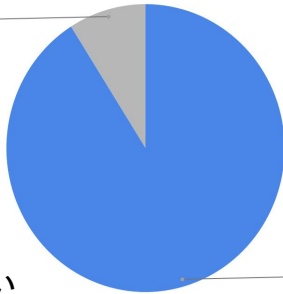
- ・市内に10代20代（以下"若者"）が楽しめる場所が少ない

問題の原因

- ・土地やお金が不足
 - ⇒新しく娯楽施設を作るのは難しい
 - ⇒経済循環、資金循環を促したい

気仙沼市には娯楽施設が少ないと思うか

いいえ
9.0%



指標項目	計画時	H29	H30	R1	目標(R2)
地域経済循環率	33.7% 地域経済循環図 2013年 (H25)	33.7% 地域経済循環図 2013年 (H25)	34.2% 地域経済循環図 2013年 (H25) データ更新	34.2% 地域経済循環図 2013年 (H25)	80.0%

地域経済循環率※を33.7%（2013年度）から震災前と同水準の**80%**（2020年度）に増やします。

III 結論・まとめ

○今回は準備期間が足りず、イベント実施はできなかったのですが、テーマの検証はできなかった。

- イベント実施にあたって、
 - ・保健所や消防署などへの申請
 - ・会場の確保
 - ・各店舗への出店依頼
 - ・企画書の作成
 - ・宣伝（InstagramやFacebookなど）

が必要なことが分かった。

※"必要なこと"の具体的な内容は資料②

K会社のCさんと
話することが最優先。

II 本論 イベントの提案

路上ライブの利点

- ・基本的に誰でも参加できる。
- ・不特定多数の人に演奏を聴いてもらえる。
- ・お金を得る手段がある。

↓ イベントに落とし込む

IV 課題

今回はイベントを実施することができなかったのですが、今年の夏に、企画したイベントを実施したいと考えています。



宣伝用ポスター

イベント<Donate!NewYear>概要

MオフィスのMさんの協力の元、**企画書**を作成。
詳細は資料①

イベント実施における各事項の目安

- ・イベントのターゲット層 ⇨10代～20代の若者
- ・イベント集客予定人数 ⇨100人
- ・ホットドリンクの金額設定（1杯）⇨100円
- ・目標寄付金額 ⇨100人×100円 = 10000円

<宣伝方法>

- ・市内のお店に**ポスター**を貼る
- ・市のLINEアカウント、
- ・Instagram ⇨これらで宣伝活動を行う

<協力>

Mオフィスの皆さん

<参考文献>

広報K 2018. 8. 1

https://www.kesennuma.miyagi.jp/sec/019/shinkokukanrisheet_r1.pdf

イベント実施の為に必要なこと

(→は出来たこと)

①ホットドリンクの販売方法など、企画内容を更に吟味する

②C社のCさんに連絡/打ち合わせ

企画書を見てもらい、・音響,ステージの相談

・費用の相談

・日時の決定

・雨天時の対応

・イベント時の注意点,アドバイスを頂く

③場所の申請

学校側から企画書等を水産漁港部に送ってもらい、申請する

→FAXは送れた

④出店店舗への連絡

自分達で3店に企画書を送り、主旨説明,出店依頼をする

→当日仮押さえをしてもらった

⑤軽音楽部への連絡

顧問の先生,部員に企画書を見てもらい、出演依頼をする

機材の運搬なども相談する

→スケジュールを伝えた

⑥消防への申請

火を使う場所を消防署に伝え、消化器を借りる

⑦保健所への申請

食べ物を売る際、保健所へ申請し検査をする

→電話で確認をしたが企画書を送るまでは至らなかった

⑧近隣店舗への説明

⑨当日の役割分担を決める

⑩宣伝

・チラシの作成 →できた

・市のLINEで宣伝して貰う為に、市に連絡

・Instagramでの拡散

イベント1ヶ月前に宣伝を始め、1週間前から頻度を上げる